

ビジネス法学入門		講義	教授 吉田 一康	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200113	

1. 授業のねらい・概要

ビジネスに関する法律の基本的な事項について、幅広く概略を理解することを目標とします。

社会では、アルバイトをしたり、将来、会社に就職する場合、労働法が関係します。商品を買ったり売ったりする取引は民法などが関係します。会社のお金を横領したなどという疑いをかけられた場合は、犯罪について規定している刑法などが関係します。このように、ビジネスに法律知識は必須であり、是非とも知っておかなければならない事項について学びます。また、2009年から開始された裁判員制度についても理解します。

2. 授業の進め方

①50～60分 配布するレジュメに従って、説明や補足をしながら講義を行います。

②30～40分 配布する練習問題に回答してもらいます。また、質問を受け付けます。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 民法（債権）
2. 法律とは（定義、強制力）	10. 商法・会社法
3. 憲法（ビジネス関係）	11. 労働法
4. 刑法（ビジネス関係）	12. スポーツ法（移籍規定など）
5. 刑事訴訟（逮捕から裁判まで）	13. スポーツ代理人（契約交渉など）
6. 裁判員制度	14. 知的財産法（特許権、実用新案権など）
7. 民法（総則）	15. 民事訴訟（訴えたり、訴えられたり）
8. 民法（物権）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読むこと（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。

②期末試験の後に、解答例を掲示します。

6. 授業における学修の到達目標

①「六法」について、基本的な事項を理解できる。

②議論がある法律問題について独自の価値観を形成する。

7. 成績評価の方法・基準

積極性 20%＋期末試験 80%で評価します（A 80点以上 B 70～79点 C 60～69点 D（不可）60点未満）。

積極性は、受講態度や発言、質問、質問に対する回答などを考慮します。期末試験は、上記の到達目標①の確認を主とする選択問題と、同②に関する記述問題を出題します。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

①伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門』（有斐閣双書、第4版、2005）1320円

②末川博編『法学入門』（有斐閣双書，第6版補訂版，2014）1650円

③石川明編『フレームワーク法学入門』（不磨書房，2007）2640円

9. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。